

『障害者に関する直接的指導のタイプ』

本郷小学校第6学年音楽科学習指導案

1 題材名 音楽で世界の旅

2 題材の目標

- (1) 日本の伝統的な音楽や世界各地の音楽に関心をもち、意欲的に表現したり鑑賞したりすることができる。
- (2) 日本の伝統的な音楽や楽器についての知識や理解を深めることができる。

3 題材観

日本の伝統的な音楽を出発点として、アジアや世界各地の様々な音楽に親しむことで、子どもたちの持つ音楽の世界をより一層広げることをねらいとしている。

4 指導計画（総時数10時間）

- (1) 日本のふしを味わおう。・・・2
 - ①「越天楽今様」を曲想にふさわしい速さや強さで工夫して歌う。
 - ②雅楽「越天楽」を鑑賞し、雅楽の演奏の様子や楽器について知る。
- (2) 箏と尺八に親しもう。「春の海」・・・3（本時3／3）
 - ①情景を創造しながら「春の海」を聴き、宮城道雄について調べる。
 - ②箏の音色を生で聴いたり、演奏したりする体験をする。
 - ③盲目の宮城道雄が作曲したことについて話し合う。
- (3) アジアの歌を歌おう。「アリラン」「太湖船」・・・1
 - ①曲想に合う歌い方をしたり、アジア各地の歌を鑑賞したりする。
- (4) 世界の音楽や楽器の音色をきこう。・・・1
 - ①聴いてみたい楽器や曲を選択して鑑賞し、楽器の音色の特色をまとめる。
- (5) ふるさとへの思いを込めて歌おう。「ふるさと」・・・2
 - ①歌詞の意味を理解して、各パートの練習をする。
 - ②自分たちのふるさとについて話し合い、心を込めて合唱する。
- (6) 日本の歌心の歌「小さい秋見つけた」「ペチカ」・・・1
 - ①範唱を聴き、情景を思い浮かべながら歌う。

5 人権教育との関連

日本の伝統的な音楽や世界各地の音楽を鑑賞し、その音楽のよさを感じさせることで物事のよさや美しさに感動する気持ちを育てたい。（感受性）

6 本時の指導

- (1) 題目 「琴に親しもう」
- (2) ねらい

盲目の宮城道雄が「春の海」を作曲したことに関心をもちながら日本の伝統音楽に触れ、

箏の音色を味わうことができる。

(3) 人権教育の視点

実際に箏に触れる体験を通して、盲目の宮城道雄がこのような曲を作曲した事への偉大さを感じるとともに、大きな努力があった事に共感することができる。(感受性)

(4) 展開

◎人権教育上の配慮

具 体 目 標	学 習 活 動	教 師 の 支 援
・ 本時の学習課題を確認することができる。	1 本時の学習課題を確認する。 盲目の宮城道雄が作曲した「春の海」を鑑賞しよう。	・ 盲目の宮城道雄が作曲した「春の海」を鑑賞することで、盲目の人たちの気持ちや努力を考えることを確認する。
・ 箏に触れて感想をもつことができる。	2 実際に箏に触れた感想を発表する。	◎ 箏に触れる体験を通して箏の難しさや盲目で弾きこなした宮城道雄の苦労や努力に気付かせるようにする。 ・ 前時に調べた宮城道雄の生い立ちについても触れ、理解を深めるようにする。
・ 宮城道雄の偉大さに気付くことができる。	3 宮城道雄の演奏している映像を見る。(インターネット利用)	◎ まるで目が見えているかのように箏を弾く宮城道雄の偉大さに気付かせる。
・ 盲目の人が作曲をした努力に気付くことができる。	4 盲目の宮城道雄が作曲したことについて話し合う。	◎ 盲目の人が作曲をするためにどのような苦労がありどんな努力をしたのかを考えさせる。
・ 宮城道雄の努力を考えながら「春の海」を鑑賞することができる。	5 「春の海」を鑑賞する。	◎ 宮城道雄の努力を考えながら「春の海」を鑑賞させる。
・ 本時を振り返り、感想をまとめることができる。	6 本時を振り返り、感想をまとめる。	◎ 自分の中で障害者への見方・考え方がどう変化したか考えさせたい。

(5) 考察

○成果

- ・ 実際に箏を弾く場を設けたことで箏の難しさを体験できた。その箏で盲目の宮城道雄がすばらしい演奏をしたり作曲をしたりしたことを知り、道雄の偉大さを実感することができた。
- ・ 今まで障害者に対してかわいそう、助けてあげたい、健常者と同じことはなかなかできないと思っていた児童がほとんどだった。しかし、この勉強を通して努力をすれば障害者の人も健常者と同じことができる、障害者はかわいそうと勝手に思い込んでいた自分が間違っていた、障害者の人も目標に向かってやり遂げることができる、など障害者に対する思いの変化が見られた児童が多かった。

○課題

- ・ 実際に箏を弾く時間の中で、目隠しをして箏を弾く体験もさせるつもりであったが、ゲストティーチャーの箏を壊すようなことがあってはいけなかったので、結局この体験はできなかった。学校に1台でも箏があると良いと思った。

資料

ワークシート1

宮城道雄について調べよう

6年 名前 ()

調べる内容	調べて分かったこと
生年月日・出身地 享年	1894年4月7日生まれ 出身地（兵庫県） 享年 62才
失明したのは何才か	8才
小さい頃の宮城道雄	・ 11才で免許皆伝となる。 ・ 13才の時、一家で朝鮮の仁川へ渡り箏と尺八を教えて家計を助ける。 ・ 14才で第一作の箏曲「水の変態」を書き上げ伊藤博文に評価される。
大人になってからの 宮城道雄	・ 朝鮮時代にもたびたび神戸の旧師中島や熊本の地歌名手長谷幸輝を訪れて修行を積み、1916年大検校の称号を受ける。 ・ 35才（1919年）本郷春木町の中央会堂で念願の第1回作品発表会を開催して作曲家としてデビューする。
宮城道雄が作曲した 曲について	・ 14才で第一作の箏曲「水の変態」を書き上げた。 ・ 「春の海」はフランス人女流バイオリスト、ルネ・シュメーと共演され、世界的な評価を得ることになった。 ・ 箏曲「水の変態」「春の海」「教え唄変奏曲」「越天楽変奏曲」「ロンドンの夜の雨」「さくら変奏曲」「瀬音」「さらし風手事」など作曲は300曲以上にも及ぶ。 ・ オーケストラとの共演や邦楽器によるカンタータの作曲。

宮城道雄について 調べた感想	・14才で作曲したのが、自分とあまり変わらない年齢なのすごかった。 ・8才で目が見えなくなっかわいそうだったし、まだ子供なのに目が見えないとこれから生きていくのに大変だなと思った。 ・目が見えなくても琴が弾けて、若いのに作曲もして、いろいろな賞をとってすごかった。
-------------------	--

ワークシート 2

箏を弾いてみよう

6 年 名前 ()

	自分の考えや感想を書こう
箏を弾いた感想	・思っていたより音が出しづらくて難しかった。 ・一つの音を出すのに二つの音が出てしまい難しかった。でも、低くていい音だった。 ・コツを教えてもらったら少しできるようになって楽しくなってきた。 ・手に来る振動が楽しかった。
盲目の宮城道雄が箏を弾いたり作曲したりしたことをどう思いますか。	・私は目が見えても箏を弾くのが難しいのに、目が見えない人が上手に弾いていてすごいと思う。 ・目が見えないから箏も見えないし、楽譜も見えないのにどうやって演奏したり作曲したりしたんだろうと思う。耳だけで作曲したり演奏したりする宮城道雄さんは本当にすごいと思う。 ・目が見えなくても、それに負けないで努力したから弾けたのだと思う。目が見えないことに甘えないで努力し続けたのがすごい。 ・障害者はかわいそうというイメージだったけど、宮城道雄さんを見て障害者もそれに負けないで努力すれば難しいことでもできていいことができるんだと思った。 ・障害者の人はあきらめてしまうのかと思っていたけど、自分の目標に向かってがんばっているんだと思った。 ・障害者の人はすごい大変だと思っていたけれど、宮城道雄さんはすごい努力をしてたくさんの作曲ができたので、障害者の人もこうやって努力をすればいろいろなことができるのだなと思った。 ・宮城道雄さんの勉強をして障害者への見方が変わった。 ・障害者の人の方が健常者より心がすごく強いんだと思った。 ・この宮城道雄さんの感動をもっとたくさんの人に知ってもらいたいと思った。

※児童のワークシートからの抜粋。